

史遊会通信

NO. 188
平成22年
6月14日
発行

事務局
03-3712
0651
下山田方

五月講演要旨

現行の小学校教科書に書かれている和算

佐藤 健一

はじめに

小学校・中学校・高等学校の算数・数学の教科書には少し前から和算が取り上げられている。特に小学校では、江戸時代に多くの人々が好んでいた数学が授業に効果があることがわかってきたことによる。

たとえ教科書には無くても教える人も出てきた。しかし、教える側では、自分たちが学んだものでないため、深入りしようとする教師も多い。小学校に限らず、中学や高等学校の教科書でも和算を取り上げている。それも内容はほぼ同じで、和算の中では最も易しい数学を扱っている。いわゆる通俗書といわれる『塵劫記』やその類書にある数学で、和算で扱っている現代とは

異なる考えや解き方には触れない。

小学校では六社が算数の教科書を刊行している。この六社についてどのような内容の和算を取り上げているかを述べたい。

一、内容

小学二年生から「知恵の板」「裁ち合わせ」が入る。色紙いろがみを使うこともあつて表裏二色になる。和算の「清少納言知恵の板」を扱う教科書もある。

「小学校学習指導要領」の算数的活動で、「身の回りから、いろいろな形を見付けたり、具体物を用いて形を作ったり分解したりする活動」として和算の「裁ち合わせ」や「知恵の板」が適当な教材と考えられた。正方形や長方形の紙をハサミで切つて、そ

例会のお知らせ

◎ 6月例会

日時 平成22年6月23日(水)

午後6時～8時

会場 目黒区立中央町社会教育館

講演 瀧澤中氏

テーマ 政治宣伝を眺めて

～近現代史を中心に～

〔注〕会場の地図は先月号をご参照ください。お間違えのないように！

自由執筆は平山善之・山本鎮雄・三戸岡道夫の諸氏。締切りは6月末

◎ 7月例会

日時 平成22年7月28日(水)

午後6時～8時

会場 目黒区民センター 7階

社会教育館 第2研修室

講演 小田絃一郎氏

テーマ 源氏物語

小田絃一郎氏は元農林水産省職員、市井の源氏研究者です。

自由執筆は柴田弘武・鯨游海・

太田精一の諸氏。締切りは8月15日

れを重ねられないようにつないで、いろいろな形を作るのが「裁ち合わせ」である。その一例として、長方形を切つてつないで正方形を作るものがある。「知恵の板」は現代ではタンブラーとして外国で考案されたものが知られている。小学校の教科書では「清少納言の知恵の板」を取り上げた教科書があった。

「円の面積」では、『塵劫記』の類書である『算法指南車』で図入りで説明してあるものをそのまま出した教科書があった。「鶴亀算」はそうでなくてもかなり知られている。和算の定番のようになっていたが、現在では和算の求め方とは違って、求める表現が分かりにくい。「油はかり分け算」は単純な作業の繰り返しで求めることが出来る。中国から伝わった知恵の輪の「九連環」も同じ考えて、このような解決方法は他にも沢山あるであろう。「俵杉算」は杉の木のように物を積み重ねたときの物の総数を求めるもので、後に学ぶ数列や級数の考えに繋がるものである。「算額」は江戸時代の数学者や愛好家たちが、自分が解けた問題や答を額にして神社や寺に奉納したもので、使用学校の児童に解ける問題はほとんど現存していないが、紹介の形で写真

入りで出ている。「象の重さをはかる」は中国の『三国志』に書かれているもので、曹操のもとに象が他国から送られてきた。曹操はこの象の重さを量る方法を家来たちに尋ねたが、誰も応える者がいなかった。そのとき十歳の曹操の子の蒼舒が前に出てきて答えた。このことは江戸時代の数学書『改算記』に絵入りで出ている。「大きな数」「小さい数」は『塵劫記』のものをそのままのせた。「虫食い算」については江戸時代では虫喰いのため穴の開いた書付を使って問題が作られているが、教科書では現代的に数の計算式の中に虫食いを作って問題にしている。「方陣」は三方陣だけである。「伝記」は巻末に偉人の紹介があるが、和算ではどういうわけか曾呂利新左衛門である。「人の体積をはかる」は『改算記』に「象の重さを量る」のすぐ後に出ている。「木の高さをはかる」は『塵劫記』の問題で正確ではないが、ギリシャのタレスがやったという「ピラミッド」の高さを測ることと同じである。「そろばん」は計算の仕方を説明。「入れ子算」では現代では入れ子に相当するものが少なく、算法としては小学校の範囲を超える。

もの
子供が普通に持っているオハジキなどで「薬師算」「さっさ立て」「盗人かくし」「大原の花売り」などは遊べるが、その理屈を考えると、拡張したり数を換えたりできない。「ねずみ算」は本来ソロバンの掛け算練習のために作られたもので、現在のように筆算中心の計算では無理である。「馬のり問題」は数を変えても出来るようになれば、正しい考え方を身につけたことになる。「百五減算」などは同様に教えることはできるが、理論は高校でも学習しないものであるから、たとえ遊びとしてわかっても算数として扱うにはかなりの指導力が必要になる。

三、これからのこと
まずは、教える立場にある教師の意識が大切である。日本の文化を知ることが大切である。そのためには、和算で作られてきた算法や考え方を、教師自らが学習することである。そうなること教師が必要な教材を集めたり、現代の人たちにわかる表現や現在の生活で存在する物を使って教材を作ることが必要になる。

実際の調査資料を紹介したが、ここでは省略する。

自由執筆

武藤山治という政治家

瀧澤 中

「諸君!!! 郵便貯金を喰ひ荒す既成政党を尚助けるか」

いまから八十二年前の昭和三年。日本で初めて普通選挙法が行われた時、「実業同志会」候補者の選挙ポスターに書かれた文句である。

実業同志会は、武藤山治が創立した政党で、実業家の合理的な考え方、経営手法を国家経営に活かそうということが、根本にあった。

武藤山治は、倒産寸前の鐘紡を再建、鐘紡の「中興の祖」と言われる。

鐘紡では、お母さん女工のための幼児保育施設や日本初の共済組合設置など、当時「温情主義」と擲論された従業員優先の先進的な経営手法で脚光を浴びた。

その武藤が、政界と官界の体たらくに怒り、新党を立ち上げた。

武藤ら実業同志会の政策を具体的に言えば、

「鉄道、郵便、簡易生命保険、郵便年金、塩やタバコの専売、電信電話、こういうものを官でやる必要があるのか」ということ。つまり、「官から民へ」、

「郵政民営化」の先駆者だったわけである。戦前から日本の郵政は政治と密着しており、そこに無駄な事業支出、政治家による恣意的な資金配分もあった。

私が驚いたのは、およそ八十年前にこうした主張を展開した政党があったことと、八十年以上経った今も武藤の理想がすべて実現したわけではない、ということである。

郵政民営化が政治史の中で語られないのは、いかに郵政が政治家にとって都合のよいものであり続けたか、ということと、直接国民に見えない政策は問題が表面化しにくい、という点が挙げられる。

冒頭の「郵便貯金を喰ひ荒す既成政党」というフレーズだが、当時も今も、それが何を意味するのか正確に理解している国民は少ない。それよりもたとえば、

「不景気と貧乏神を追ひ払ふ政友会」
「力ある政治家 鳩山一郎」

「普選の闘将・民軍の勇士 三木武吉」
「文藝家にも議席を与へよ 菊池寛」

といったキャッチの方が、国民ウケしたのである（これらは実際に使われた）。しかも、当時の選挙制度は一つの選挙区で複数が当選する中選挙区。

政党が激突する小選挙区と違い、同じ政党の候補同士がぶつかる中選挙区では、候補者の人柄や、政治と関係のない人気が当落を左右した。それでも武藤と実業同志会は愚直に政策を前面に押し出して戦った。

武藤は後に暗殺される（昭和九年三月）が、その二年半ほど前に、同志に宛てて遺書をしたためている。

「……諸君最唯一の途は良心の支配を受くることなり。党利党略のために良心を売るは最も忌むべきことなり。人は良心によりて行動するほど快きことはなし」

良心と問題解決能力を併せ持った武藤。余談だが、武藤は貴族院勅選議員に推された時、「私は福沢（諭吉）の弟子で、そんなものは嫌いです」と言って断った。生家は豪農だったが、常に働く側、税金を納める側に立っていた武藤らしい逸話である。

自由執筆
小さな旅

平城京を歩く

相原 精次

時あたかも、奈良市内は平城京遷都千三百年祭。この人波に紛れつつ、しかし、いささかこの風潮とは別の視点のもとに奈良市内を散策することにしよう。

佐保路

平城京の一條大路北側にある丘陵地帯と佐保川の沿岸を佐保路という。

ここは平城京造営以前の時代や、その後の天平時代を支えた人々の墓所など、秘められた史跡に富んでいる。

黒髮山

垂仁天皇の時代、春日の地に本拠を持つ沙本毘古（狭穂彦）王の反乱に関する伝承がある。その妹は天皇の後だった。王が反乱を起こした時、妹の沙本毘売（狭穂姫）は板挟みとなり、結局兄とともに滅ぶことになった。

兄の側に帰った沙本毘売は天皇の子供を

孕んでいた。天皇はそのヒメを我が身の元に戻そうとした。ヒメはそれを拒み、天皇側の兵に髪を掴まれないようにと、あらかじめその黒髪を切っていたという話が『古事記』にある。その黒髪を埋めた地がここ佐保路の「黒髮山」だったと伝承され、黒髮山稻荷神社がある。

ぬば玉の黒髮山の山草に

小雨降りしき しくしく思ほゆ

（『万葉集』二四五六）

この近くに狭岡神社がある。この神社は藤原不比等が「佐保殿」の丘陵に八座の神社を祀ったことに始まる、と神社縁起は語る。つまりこのあたりに藤原不比等の「佐保殿」があったことになる。

この狭岡神社の鳥居をくぐって間もなく「佐保姫鏡池・洗濯池」と伝承されている池がある。先の黒髮山の伝承に出てきた沙本毘古・沙本毘売の兄妹は春日率川宮を営んだ開化天皇と土地の春日氏の娘との間に生まれた子供であり、この佐保の地が故地であったとされる。

「率川の宮」の名は『日本書紀』開化天皇のところ「都を春日の地に遷し、率川宮とした」とある。近鉄奈良駅とJR奈良駅

との中間あたりにある率川神社がそのゆかりであろうといわれる。

また開化天皇は「春日率川坂本陵に葬られたとあって、近鉄奈良駅に近いところの「開化天皇陵」とされる念仏寺山古墳がそれであるとされる。

この古墳、土産物屋の多い三条通に接し、住宅などに囲まれているので確認しづらいのだが前方後円墳で、全長一〇〇mほどの大きさである。このあたりは和爾氏の一族、春日氏が本拠を構えたところだった。

開化天皇は、神武天皇と崇神天皇の間の欠史八代と呼ばれる最後の天皇である。欠史八代とは、大和盆地周辺にあった勢力が割拠して横並びだった時代の様子を、縦の八代かのように語りなおしたもののとの解釈もあり、謎は多い。

「和邇・和爾・和珥」は大和国添上郡和爾（現、天理市和爾）の和爾坐赤阪比古神社の祭神が本来の祖神と考えられている。本宗家和爾臣は、継体朝頃までに絶えたと思われる。これに代って、春日の地に分かれていた春日臣が仁徳天皇の頃本宗家となり、それが後にさらに大宅臣、栗田臣、小野臣等々を次々に分岐し、大和から山城・近江

さらには日本海方面へ発展していったのではないかといわれる。

つまり「平城京」遷都前の「なら」一帯には春日氏が盤踞しており、平城京内、あるいはその北にある佐紀楯列古墳群は春日一族の墓なのではないかと言われる。

大山守命墓

応神天皇には三人の皇子があった。大山守命と大雀（大鷓鴣）命と宇遲能和紀郎子（菟道稚郎子）である。

応神天皇は末の宇遲能和紀郎子に期待をかけていた。しかし宇遲能和紀郎子は自分がいちばん末であることを気にかけていた。応神天皇の亡き後、いよいよ皇位を継ぐときになった。宇遲能和紀郎子はすぐ上の兄大雀命に位を継いでくれとたのんだ。しかし、兄は亡き天皇の意志ではないからと断った。そんなときいちばん上の兄大山守命が不満を持ち、叛乱を起こした。二人の弟は協力して大山守命を亡ぼした。その後もさらに位を譲り合ったのだが宇遲能和紀郎子が先になくなったので、大雀命が天皇位を継いで、仁徳天皇となった。

この話の、大勢に逆らった大山守命の墓もここ佐保路にある。

そしてこの丘陵は「平城京」にかかわる

皇族の奥津城処でもある。

元明・元正・聖武・光明子・基皇子らの墓がこのあたりの丘陵に集中している。そして東淡海山・西淡海山と呼ばれる円墳らしい二つの小山は、このあたりに佐保殿を持つていたとされる不比等（淡海公）とその妻橘三千代の墓ではないかとの伝承もある。

佐紀路

佐保路と接し、平城宮の北側に位置するその一帯が佐紀路である。このあたりは先に述べた春日一族の奥津城かともいわれる楯列古墳群のあるところである。この古墳群は宮内庁管理のものが多く、主要なものは以下のとおりである。

磐之媛命陵

〔平城坂上墓・ヒシ

ヤゲ古墳〕前方後円墳・二一九m・中期・培塚と思われるもの七基。

コナベ古墳

〔陵墓参考地。前方後

円墳・二〇四m・中期五世紀初。

ウワナベ古墳

〔陵墓参考地。前方

後円墳・二五五m・中期五世紀中頃。

成務天皇陵

〔挟城盾列池後陵

佐紀石塚山古墳〕前方後円墳・二一八m・前期。

日葉酢媛命陵

〔狭木之寺間陵・

佐紀陵山古墳〕前方後円墳・二〇七m・前期四世紀後半～五世紀前半。

神功皇后陵

〔五社神古墳〕前方

後円墳・二七五m・前期後半四世紀後半～五世紀初。

等々、春日一族の奥津城と言うにはほど遠い名が並んでいる。

孝謙（称徳）天皇陵

〔佐紀高塚

古墳〕前方後円墳・一二七m・前期。

平城天皇陵

〔楊梅陵・市庭古

墳〕前方後円墳・二五〇m・中期五世紀。

この二基に比定されているのは奈良時代末から平安時代初期の天皇であって古墳の築造された時代とは全く合っていない。そして平城天皇陵とされるものの現形は円墳なのだが、平城京造営の際、前方部が削られたものであることがわかっている。

自由執筆

旅順・大連点描

中込 勝則

NHKで「坂の上の雲」の放映が始まったのを機会にかねてから一度は見えておきたいと思っていた旅順・大連に三月に行ってきたので、歴史的な遺跡など見たままを短歌を交えて記したいと思います。

◎ 二〇三高地

日露戦争に先立ってロシアがここに堅固な要塞を築いていたことはご存じの通りですが、麓から頂上まで防衛上の眺望確保のため、樹木をすべて切り払ってしまいました。で、当時の写真をみると禿山です。が、百年を経ているは青々と松などの樹木で覆われています。激戦の跡は史跡に整備されて観光客が途切れることがあります。頂上には、日露戦後拾い集めた弾丸等の破片で造られた「爾霊塔」がたっています。

○松陰を透かして立てる爾霊塔

春日の中に 歴史は消えず

○地で染めし 爾霊の山は静まりて

弾丸の塔に 松風の聲

この高地に立てば、旅順湾全体が一望に見渡され、旅順港に浮かぶロシアの旅順艦隊を砲撃するのに極めて好適地であったことがよくわかります。旅順港口は航路幅が九〇mしかなく、ここにボロ船を沈めて塞ぎ、艦隊を湾内に閉じ込めようとの封鎖作戦の最中に、中佐廣瀬武夫は戦死しました。彼は若い頃海軍省から派遣されてサンクトペテルブルグに留学しました。

このときロシア貴族コヴァレフスキー子爵の令嬢アリアズナから思いを寄せられましたが、独身主義の彼はこれを断って帰国し、彼女はその後一生独身で過ごしたといえます。

○春霞 爾霊の山よりはるかにも

廣瀬の死しし 旅順口見ゆ

○死の知らせいかに聞きしやアリアズナ

雪のサンクト 凍れる夜に

廣瀬の体は旗艦レトウイザンからの一斉射撃を受けて粉々になったと伝わっていますが、実は旅順港に浮かんだ遺体がロシア海軍により回収され、彼の死体確認検分はその時ロシア海軍に従軍していた、廣瀬の留学時代の親友でもあり、そして何よりもアリアズナの廣瀬に対する思いを一番分か

っていた二人の兄ウラジミールとセルゲイとによってなされ、その後ロシア海軍荣誉礼をもって旅順のロシア海軍墓地に埋葬されました。

○外套に秘めし時計は 別れの日

真幸くあれと 贈られしもの

◎ 水師管会見所

乃木とステッセルの二將軍の会見所は、いちど朽ち果てましたが、近隣の農民の手によって昔のままに再建されています。

粗末な民家そのままの姿で、下が土間のままの十畳くらいの二間には当時の写真がたくさん飾られ、まんやかに会見時使った粗末な細長い机と長いベンチがおかれています。かつてこの建物は清の海軍（水師）の野戦病院で、机は手術台だったものです。（戦後ステッセルは軍法会議で絞首刑の判決を受けましたが、乃木が皇帝に親書を送って減刑を嘆願した結果、終身刑に減刑され、晩年は釈放されてシベリアで死亡）

○勝てば神 負くるは刑の二將軍

吹く風寒し 水師の管に

◎ 川島芳子旧居（旧肅親王府）

川島芳子が少女時代をすごした家は赭色の外壁、二階建ての洋館で当時はいやれた

建物だったと思いますが、いまは住む人もなく窓は割れ庭は草が茂って荒れ果てています。中の見学はできませんでした。

○ 楮き壁 石階段の 洋館の

肅親王府は 草の茂りて

○ 窓は割れ 壁の丹塗りは色あせて

川島芳子の 旧居荒れたり

◎ 大連・中山広場・旧大連大和ホテル

大連駅から徒歩十五分くらいのところに中山広場があります。ここらは大連市の中心のみならず、かつて日本の満州支配上重要な建物が多いところでした。

円形の広場を囲んで旧横浜正金銀行大連支店・旧大連市役所・大連警察署・旧大連

祝出版

太田精一著

『遙かなるカメルーン』

アフリカ西海岸での

異文化体験

彩流社

定価（一九〇〇円＋税）

大和ホテルなどが立ち並んでいてこれらは今でもりっぱに使用されています。中でも大和ホテルは戦前も戦後も日中の要人が宿泊し、満州一の格式を誇っていました。いまは四ツ星ホテルとなっていますが、近々建物内外をレンガ一枚に至るまで昔の姿に改装し、世界遺産に登録申請する予定です。

○ 蘇えれ 歴史の栄華しのぼせる

赤絨緞の 大和ホテルよ

中山広場のちよつと東には、旧満鉄本社があつていまは大連鉄道處として使われています。かつて関東軍とやらで満州支配の総本山だった会社の建物です。

◎ 路面電車

大連市内を、市内電車が走っていますが運賃はどこまでも一元です。これに乗ると今でも、かつて日本支配時代の、中国人には屈辱の写真が一杯飾られています。戦前はこの電車にも二種類があつて外国人専用と中国人専用と分離されていたのでした。この屈辱を風化させないようにとの現在の中国の歴史教育の意志が感じられます。

○ 一元の路面電車に乗りたれば

屈辱の写真 数多飾らる

◎ 大連駅

われわれが泊まったホテルの前はすぐに大連駅でした。この駅は外観がわが上野駅に似ているといわれます。旧満鉄はここを出発点とし満州支配の上で重要な駅でした。朝、散歩していると地方からの出稼ぎ農民工たちが、春の農作業が近づいてくるので故郷に帰るのか、大きな麻袋などに荷物を詰めて肩に担いで駅に向かっています。

○ 上野駅似たる駅頭 天寒く

帰省の農民 数多群れたり

◎ 大連港埠頭

戦後満州からの引揚げ船が一番多く出発したのは大連港からでした。戦前日本が満州への発展の足がかりとして造った四つの棧橋は皮肉にも逃避の棧橋となったのです。日本側の到着港は「存じ舞鶴港でした。二葉百合子うたう「岸壁の母」の舞台です。

○ 引き揚げの 四つの棧橋そのままに

春の潮風 類に冷たく

○ 大連の 今も残れる岸壁に

百合子の歌の 届き有りしか

現在の大連の発展振りはめざましく、商工業の東北の中心としての重要性が益々増しているようで、この棧橋も盛んに積荷が往来し平和の時代の棧橋に変わっています。

自由執筆

「小諸なる古城」

(友の会) 諸橋 奏

名にし負う「小諸なる古城」とは……。

全国に「こもろ」の地名は長野県の小諸一つである。古代地名で、モロはモリ「杜」(カミをマツる神域)あるいはムラ「村」(ヒトがムラがる所)の転化で、語源上、モロは朝鮮語の神社や古墳の石室(ムロ)を意味し、モロ・モリ・ムラ・ムレ・ムロは同源・同義語で、本来、山や丘のことであるという。小諸(室)名の初見は「養和元年(一一八一)木曾義仲の部将小室太郎光兼が現城址の東北、宇当坂に館を築いた」との故事である。

次いで小室氏に替わり佐久郡岩村田から大井氏が進出、長享元年(一四八七)大井光忠が鍋蓋城(現大手門北側)を、その子光為が乙女城別名白鶴城(二の丸付近)を築いた。武田信玄はこの小室城(鍋蓋・乙女城)を攻略、山本勘助らに命じて、大凡現在の城の原型の小諸城(酔月城)を築城した。天正十年(一五八二)の武田氏滅亡以後は、織田、北條、徳川、豊臣と所領が

移り、天正十八年には小田原征伐で戦功を立てた仙石秀久が入封(五万石)し、初代小諸城主となって、二の丸・黒門・大手門を、その子忠政が三の門・足柄門を建て城は完成した。その後、城主は六氏七代を経て、元禄十五年(一七〇二)越後与板より牧野周防守康重が入封(一万五千石)し、以後明治四年(一八七二)の廃藩まで約一七〇年十代にわたって牧野氏が在城した。

現在の小諸城址には、慶長十七年(一六一二)に仙石秀久が造営した二階建の大手門と、明和二年(一七六五)当時の藩主牧野康満(三代)が再建した三の門とが国指定重要文化財として残っている。また小諸城に纏わるエピソードとして、二の丸は、慶長五年(一六〇〇)徳川秀忠が関ヶ原の合戦に参戦の途次、上田の真田昌幸・幸村軍に挺摺り、大合戦に間に合わなかったという歴史上のあの時、滞在したところとして知られている。

牧野氏の祖は、源平時代(十一世紀末期から十二世紀末)には四国の讃岐に本拠地を置いたが、承久の乱(一一二二)のとき鎌倉方に参陣、その功により三河国宝飯郡牧野村(豊川市)に地頭職を得て牧野氏を名乗ったとされる。やがて牛久保城(豊川

市)を築いて国人領主となった。

今川氏と松平(徳川)氏の二大勢力下、よく戦乱の世を生き抜き、牧野康成は家康のようになる。天正十八年(一五九〇)家康の関東移封と共に牧野忠成は上州大胡二万石の大名に、更に越後長峰五万石を経て越後長岡六万四千石(後に一万石加増)の藩主となった。以後十三代忠毅の幕末まで牧野家がこの地を治めた。

長岡藩初代藩主牧野忠成は、二男康成に一万石を与えて与板藩を立藩したが、二代康道の後継に五代將軍綱吉の母桂昌院の弟本庄宗資の子を養子に迎えて三代康重を名乗らせた。この康重が五千石加増されて小諸藩に入封したのである。

ところで、当「小諸なる古城」を周知させたのは島崎藤村であった。藤村は明治三十二年から三十八年まで小諸義塾の教師を勤めた。三十四年刊行の『落梅集』の一篇「千曲川旅情の歌―小諸なる古城のほとり」が多くの人々の共感を呼び、人々は挙ってこの青春の詠歎と抒情の詩を口遊んだ。それは、藤村が二十一歳で明治女学校の教師をした折、愛し、天折した教え子佐藤輔子への哀傷歌だったからであろう。